

平成25年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23K㎡)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,884	8,378	4,198	4,180	△ 8	△ 24
2 千 石	3,389	6,680	3,385	3,295	14	18
3 内 山	4,860	7,115	3,831	3,284	△ 1	△ 12
4 大 和	3,165	6,594	3,298	3,296	10	28
5 上 野	7,263	15,597	7,616	7,981	△ 62	△ 97
6 高 見	6,355	12,474	6,002	6,472	67	100
7 春 岡	6,347	10,440	5,551	4,889	2	7
8 田 代	11,150	21,364	10,220	11,144	21	49
9 東 山	9,680	18,879	9,214	9,665	△ 14	△ 20
10 見 付	4,308	8,337	4,158	4,179	23	18
11 星ヶ丘	3,354	6,632	2,981	3,651	△ 2	△ 6
12 自由ヶ丘	3,504	7,759	3,538	4,221	3	7
13 富士見台	6,351	15,646	7,238	8,408	△ 7	△ 3
14 宮 根	3,680	8,400	3,970	4,430	△ 6	△ 5
15 千代田橋	3,610	8,768	4,103	4,665	10	14
千 種 区 計	81,900	163,063	79,303	83,760	50	74
H24.10.1	81,045	161,643	78,575	83,068	41	34
対 前 年 比	855	1,420	728	692	9	40
名 古 屋 市	1,034,154	2,271,380	1,118,832	1,152,548	665	539
愛 知 県 (H25.9.1)	2,992,969	7,433,978	3,713,717	3,720,261	1,719	1,007

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	121	92	29	918	873	45

【参考】

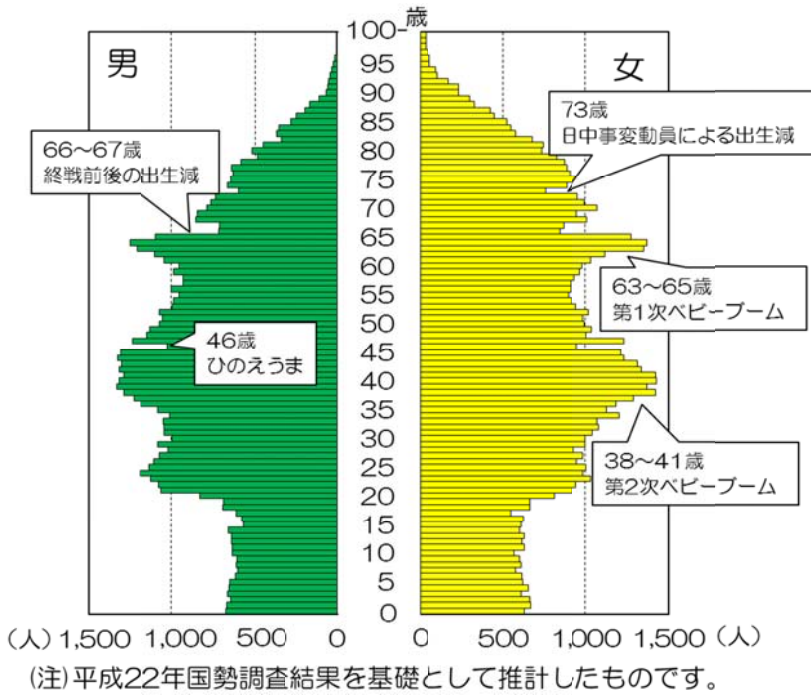
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	これまでの最少人口	
平成2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものです。(平成24年7月中の集計までは、毎月の外国人登録の異動数も加減して推計しています)

千種区の年齢各歳別人口構成と年齢3区分別人口の推移

平成25年10月1日現在の千種区の世帯数は対前月比50世帯増の81,900世帯となっており、人口は対前月比74人増の163,063人となっています。今回は平成24年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢3区分別人口の推移を見ていきます。

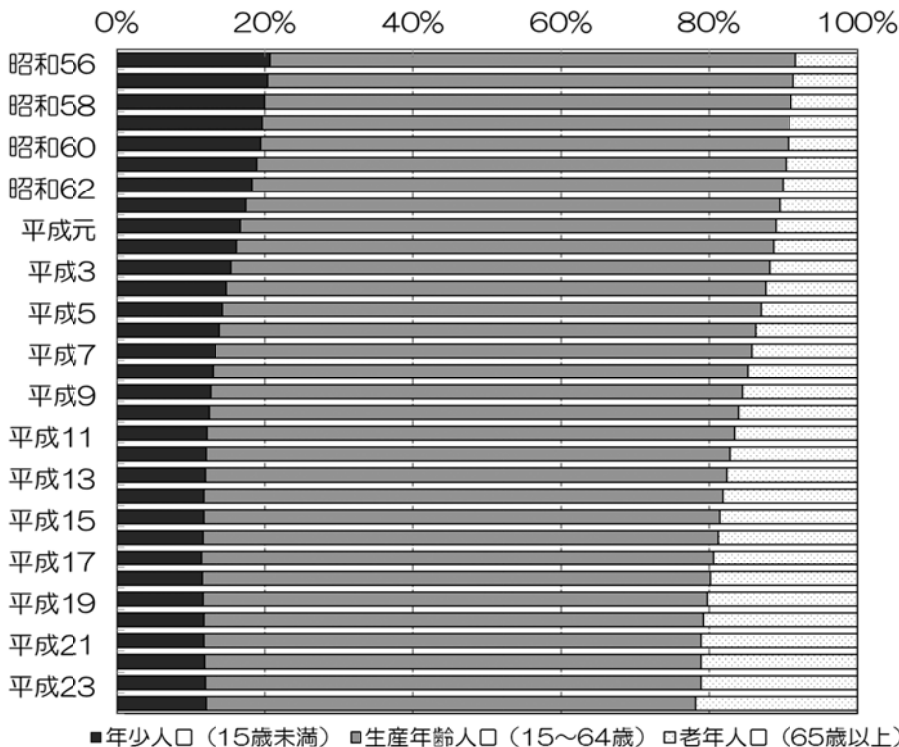
図1:千種区の年齢各歳別人口構成(平成24年10月1日現在)



平成24年10月1日現在の千種区の人口を年齢各歳別人口（人口ピラミッド）でみると、73歳および66～67歳の年代は日中事変や第二次世界大戦の影響によって、また46歳は「ひのえうま」の影響により人口が落ち込んでいます。

また、63～65歳は第1次ベビーブームの影響によって、38～41歳は第2次ベビーブームの影響によって大幅な出生増となっています。千種区の人口ピラミッドは、この2回のベビーブームの影響に伴う2つの大きなふくらみを持つ「ひょうたん型」となっています。

図2: 千種区の年齢3区分人口の割合の推移(各年10月1日現在)



昭和56年から平成24年の各年10月1日現在の年齢3区分人口の割合の推移を見てみます。昭和56年と平成24年を比較してみると、年少人口（15歳未満）の割合は8.8ポイント、生産年齢人口（15～64歳）の割合は4.7ポイント減少したのに対し、老年人口（65歳以上）の割合は13.5ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平成17年まで減少傾向でしたが、以降増加を続けています。生産年齢人口の割合は平成7年をピークに減少しています。老年人口の割合は昭和56年以降一貫して増加を続けています。